

赤

組（4月の入園時に0〜1歳）さんは、今日も大騒ぎ。個性豊かな子どもたちが、自分なりの表現で遊び回っています。シールをはるにしても、丁寧に丁寧に自分で納得できるまでやる子から、はるこがうれしくどこにでもはってしまおう子、果ては口に入れようとする子までいろいろです。泣き方だってみんな違います。しくしくと静かに泣く子もいれば、大きな声を上げたり、暴れたりしながら泣く子もいてさまざま。

じゅんちゃんは、床に寝転がり手足をバタバタさせて泣いています。どうやらおやつのお菓子がもつとほしいようです。「じゅんちゃん、さっさとあげあげたてしょ」と先生が言っても、聞く気配もありません。

「不思議よね。泣き方が3人とも一緒ね」と先生。3人きょうだいの末っ子のじゅんちゃんは、クラスの中では一番穏やか。でも、一度泣き出すと手がつけられないのは、お姉ちゃんやお兄ちゃんと同じです。お姉ちゃんが赤組さんだったころ、お母さんは「子どもがかわいいと思えないんです。泣き出すともうパニックで…」と、毎日暗い顔で先生に相談していました。先生も、初めはその暴れっぷりに手をやいていました。

さて、思いっきり暴れたじゅんちゃんは、ちょっとずつ落ち着いてきたようです。先生はそんなじゅんちゃんを抱き締める。「これはあっちゃんのおやつ、これはみっちゃんのね」と言いながら、じゅんちゃんの手を引



いてみんなの所を回ります。お友だちを回り終えるころには、じゅんちゃんももう泣いていません。一度納得すれば、ぐずらないのがこのきょうだい。ちゃんと椅子に座って、みんなが食べ終わるのを待っています。

この様子を話して、「また、やってしまいましたか。すみません」と言うお母さんの顔にもう暗さはありません。むしろ先生たちとそんなじゅんちゃんを楽しんでいるようです。「お姉ちゃん、学校行ってどうですか？」と聞く先生に「相変わらず神経質だけど、がんばって行っていますよ。このころはふたりの面倒もよく見てくれるようになったし…」と笑顔で答えてくれました。

性格なのが遺伝なのかはわからないけれど、3人とも泣き方は一緒。でも、それぞれのよさや味わいがあります。そのよさや味わいを伸ばしながら、自分らしくステキな大人に育ってほしいなと、今日も寝転がって泣きまくっているじゅんちゃんを見ながら思うのでした。

中島章裕：愛知県豊橋市の保育園で、毎日、子どもたちと楽しく過ごしている新米園長。なぜか子どもたちに「隊長」と呼ばれ、子どもたちのため、親御さんたちのため、日々走り回っています。3人のお子さんのお父さん。

2歳を過ぎたたけちゃんは、最近、歩きにぐんぐん「足を引きずりつつ」いることがあります。たけは、不思議なことに遊びに夢中になると普通に歩いたり、ときには走ったりもするんです。トイレに行くように言われたたけちゃんは、足を引きずりヨタヨタ歩きます。でも、がまんできなくなったのか途中からダッシュ。「たけちゃん、足は、足は?」。先生がそう言うと、モソモソしつつ、足を引きずりながらも早足ですっ飛んで行きます。担任の先生たちは、目配せをして笑っています。それは、ちゃんと理由がわかっているから。

たけちゃんが遊んでいるときに足をひねってから、1カ月がたちます。最初は、軽い捻挫(ねんそく)だろうと考えていましたが、1週間以上たっても足を引きずったまま。次第に心配になってきました。もちろん、病院にも通っていたのですが、長引く理由がわかりません。不安になったぼくたちは、いろいろな可能性を考えました。

そんなある日、たけちゃんのお母さんのだんだん大きくなってきたおなかを見て納得しました。たけちゃんは、赤ちゃんが生まれれば、自分だけに向けられていたお母さんの愛情が、赤ちゃんに集中してしまうと感じていたのです。そんなとき、自分が



捻挫したことでお母さんが心配してくれたことが、とつてもうれしかったのでしよう。遅かれ早かれ、これは多くのお兄ちゃんやお姉ちゃんたちが一度は感じることに。そして、「自分を見て」というサインを自分なりの表現で精一杯出しながら、やがてすてきなお兄ちゃん、お姉ちゃんになっていくのです。

今日も、たけちゃんの抵抗(?)は続きます。でも、今ではみんな、すっかりお見通しで、その姿をお母さんも先生たちも楽しんでます。「たけちゃん、足が違う、違う!」。ぼくがそう言うと、慌てて足を替えるたけちゃん。このころは、自分でもどちらの足を引きずるのがわからなくなっているようです。もうすぐかわいいう赤ちゃんが生まれてくるから、そのときはよろしくね。それまでは、いっぱいお母さんに甘えちゃえ!

中島章裕…愛知県豊橋市の保育園で、毎日、子どもたちと楽しく過ごしている新米園長。なぜか子どもたちに「隊長」と呼ばれ、子どもたちのため、親御さんたちのため、日々走り回っています。3人の子どものお父さん。

だいちゃんが今日も怒っています。キーツとなって暴れています。その瞬間を見ていなかった先生は、だいちゃんが怒った原因を探るため、すぐにまわりの様子調べます。暴れているだいちゃんの手には、青いブロックがひとつ。足元には、作りかけのブロックが転がっています。「だいちゃん、どうしたの?」と聞いても、一度暴れ出しただいちゃんは、何も答えられません。

隣では、まこちゃんが知らん顔して遊んでいます。そこには、人形とスコップと赤いブロックがひとつ。まずは、まこちゃんに事情聴取です。「まこちゃん、これだいちゃんのブロック?」まこちゃんは、首を横に振りながらスコップでブロックをすくってお人形さんに食べさせています。「まこちゃん、このブロックどこから持って来たの?」おもちゃ箱の方を指差すまこちゃん。刑事ドラマならここで「カツ丼食べるか?」ですが、おやつの間まではまだ30分あります。

「お人形さんにブロックあげてるの?」「うん」とうなずくまこちゃん。「お人形さん、おいしいうって言ってるね」「うん」。「まこちゃん、このブロックほしかったんだね」「うん」。まこちゃんの手が止まりました。「これ、だいちゃんのブロック?」「うん」。

ここで、先生の目がキラリ。「だいちゃんのブロック、取っちゃったの?」「うん」。「じゃ、これはだいちゃんに返そっか。おもちゃ箱にいろいろなブロックあるよ」

「うん」。ひとつずつ整理して子どもの心を代弁してあげると、子どもはボロリと本当のことを言ってくれます。とっさに首を振ったのは、自分でも「いけないことをしたかも」と感じていたからなんですよ。

まこちゃんは、赤いブロックを持って「ごめんね」とだいちゃんに渡します。落ち着いただいちゃんも、「はい」と言ってお受け取りました。まず事件がひとつ解決。いつしかだいちゃんのブロックの中には、まこちゃんのお人形が入っています。どうやらだいちゃんが作っていたのは、お風呂のようでした。まこちゃんが、スコップでお人形を洗っています。ついでにだいちゃんも洗っています。だいちゃん、ニコニコしながらうれしそう。

そのときです。後ろで泣き声がしました。みーちゃんが、ひとり泣いています。手にはお人形、足元にはお皿が3枚。まわりには誰もいません。さあ、またまた名探偵の出番ですよ!



中島章裕…愛知県豊橋市の保育園で、毎日、子どもたちと楽しく過ごしている新米園長。なぜか子どもたちに「隊長」と呼ばれ、子どもたちのため、親御さんたちのため、日々走り回っています。3人のお子さんのお父さん。

ある日、お迎えに来た舞ちゃんのお母さんがつぶやきました。

「子育てって損ですね」

「えっ？。不意を突かれたばかりは、思わず声を出してしまいました。子育てを損とか得とか考えたこともなかったからです。」

「だって、経済的にも精神的にも体力的にもこんなに大変な思いをして育てても、子どもが何か問題を起せば、すぐに親、それも母親の責任にされるし……」「自分の時間なんて全然ないし、子どもを連れて外に出れば冷たい目で見られるし、仕事だっていろいろと制限されるし……」「お父さんだって、仕事の帰りは遅いし、子どもや私を顧みる余裕なんて全然ないし、もう過労死寸前！」

お母さん、いよいよ止まらなくなってきました。

「一生懸命に育てても、この子たちが大人になったらどんな社会になっているかわからないし、年金だって心配だし……」

でも、舞ちゃんはかわいいでしょ？ ほくはちょっと話題を変えてみました。

「そりゃ、もう！ わかつてはいたつもりなんですけど、子どもってこんなにかわいいものとは思いませんでしたよ！ 子育ての大変さもわかってたつもりなんですけどね。お母さん、ちょっと笑顔が見えました。」

「初めてママって言ったとき、初めて歩いたとき、人



から見れば些細なことでもすごく感動しましたよ。保育園に入れて泣かれたときなんて、仕事が全然手につかなかったんですよ。でもね隊長、舞がお友たちと楽しそうに遊んでいる姿や、先生たちにかわいがってもらっている姿を見ると、ホントもうひとり産みたくなっちゃいますよ」

あれ、お母さん、さっきまで子育てって損！ って言ってませんでした？

「そうよ。子育ては損。でも、すばらしいものなのよー！ 子ども自身に手を焼くこともあるけれど、お母さんが子育てを損と感じたのは、まわりの環境に理由があるようです。子どものことを思えばこそ、真剣に悩んだり腹を立てたりするんですよ。ほくは保育園という立場から、これからも子育ての応援をしていきたいと思っています。そして、社会全体も子育てをしているおうちののたをもっと支えるように動いてほしいと願っています。」

中島章裕…愛知県豊橋市の保育園で、毎日、子どもたちと楽しく過ごしている新米園長。なぜか子どもたちに「隊長」と呼ばれ、子どもたちのため、親御さんたちのため、日々走り回っています。3人のお子さんのお父さん。

今日は、土曜日。いつものようにタカ兄ちゃんが遊びに来ています。そのひざをあきちゃんとゆなちゃんが、これまたいつものように奪い合っています。

タカ兄ちゃんは、中学1年生の卒園児。小学3年生のときから夏休みや土曜日に赤組に遊びに来てくれています。今では、先生たちから「ホントに助かるわ。バイト代をあげたいくらいよ」と言われるくらいに、子どもたちのお世話がじょうず。そんなタカ兄ちゃんを奪い合うのがあきちゃんとゆなちゃんなのです。

一見するとタカ兄ちゃんのひざの上でふたり仲良く絵本を読んでもらっているようですが、よく見るとお互いに相手を押し出そうとつばぜり合いをしています。ついに、あきちゃんがひざの真ん中を奪いました。押し出されたゆなちゃんは、もう一度挑戦しますが、あきちゃんには勝ち取ったベストポジションを明け渡す気はありません。ゆなちゃんは、あきらめて近くの窓際に行ってしまうました。

しかし、これであきらめるゆなちゃんではありません。窓の外を見ながら「ひくん、ひくん」と悲しい声を出しています。先生が心配して「どうしたの、ゆなちゃん？」と聞けば、泣き声をやめて先生をシッシと追い払います。しばらくするとまた「ひくん、ひくん」と言う声が…。そして先生が近づくと、またまた泣きやみ、シッシです。その様子を見ていた先生たちは、「もう女よね」と苦

笑しています。

「ゆなちゃん、一緒に絵本読もう！」とタカ兄ちゃんと言えば、ニッコリしてひざの上に乗ります。そして、またまたふたりで押し合いが始まります。「仲良くね」と優しく語りかけるタカ兄ちゃんですが、ふたりの間には激しい火花が散っているのです。

でも、これだけじゃないんです。タカ兄ちゃんが気づいていない所で、もうひとつ熱い視線が…。タカ兄ちゃんが机を並べれば、ブロックで遊んでいるふりをしながらも熱い視線を送り、誰かをトイレに連れて行けば、カーテンのすき間からのぞいているまりちゃん存在です！「この女の戦いは、まだまだ続きそうです。」まだまだ赤ちゃんだな」と思うこともあるけれど、淡い恋心(?)を抱くなんて、この子たちは立派なレディーなんだとドギマギしてしまいました。



相手を思いやる気持ちは、まだ育っていないように思われている1〜2歳の子たち。でも、0〜1歳の赤ちゃんが一緒にいるときは、こんな姿も見せてくれます。

ゆうくんは、自分より小さな0歳の子が泣いているとサツと絵本を持って来て、その子の前でバタバタと絵本をめくってあげます。ゆきちゃんは、これまた小さなみきちゃんにスプーンで給食を食べさせてあげます。先生があげても絶対食べない野菜も、ゆきちゃんがあげると食べてしまうみきちゃんです。そうまくんは、0歳の子のお迎えが来ると、サツとその子のカバンをロッカーから取り出してお母さんに手渡します。お母さんに「ありがとね!」と言われて、とってもうれしそうです。赤ちゃんが床に突っ伏して泣いていると、自分も床に横になりながら「いい子、いい子」と頭をなでてあげるまさくん。自分より小さな子の動きをよく見て、お世話をしあける1〜2歳児さんたちです。

ところが、ハイハイしていたときは優しくしていたのに、歩き出した途端にライバルに変身! 絵本やおもちゃの取り合いを始める子もいるのですから、おもしろいものです。この子たちにとっては、ハイハイしているうただけが赤ちゃんのようですよ。

自分より小さい子限定の優しさなのが、先生やお母さんにほめられるからなのかはわからないところもありま



すが、優しい心の芽生えが見えます。そして、同じくらしい年ごろの子は、今度はライバルであると同時にとてもすてきなお友だちになってきます。

まだまだ赤ちゃんのような一面もある1〜2歳児ですが、保育園では、おうちのかたも知らない(?)頼もしい姿を見せてくれます。朝、おうちのかたに抱かれてやって来るときは、赤ちゃんだなくって思っけれど、保育園でみんなと一緒にいるときは、とても小さな子とは思えません。先生たちが何を考えどんな気持ちかも、ちゃんと感じ取ってくれています。ひとりの人間だなあ〜って感心することはあります!

中島章裕…愛知県豊橋市の保育園で、毎日、子どもたちと楽しく過ごしている新米園長。なぜか子どもたちに「隊長」と呼ばれ、子どもたちのため、親御さんたちのため、日々走り回っています。3人のお子さんのお父さん。

保

保育園生活は楽しいけれど、子どもにとって実はストレスがいっぱい。甘えられるお母さんはいないし、何でもやってくれるじいじやばあばもいない。おもちゃだってお友だちと譲り合わなければいけないし、何ととっても、家のように自分中心に世界が回っていない。

かつて赤組さんでは、ダイちゃんが大泣きをしていました。ダイちゃんが一生懸命に作ったブロックを、トイレに行っている間にユウくんに取りられたからです。そんなユウくんは、おままことセツトをミホちゃんと奪い合っていました。

さてさて、今ではダイちゃんも、トイレに行くときには必ず遊んでいたおもちゃを先生に預けるようになりました。マコちゃんがいつもそうしていることに気づいたからです。「せんせ、ハイ！」とおもちゃを渡すダイちゃんは、ひとつ賢くなったようです。いつもおままことセツトをミホちゃんと奪い合っていたユウくんは、ミホちゃんと仲良く遊んでいます。今日は、ミホちゃんがお母さんのようです。ミホちゃんに「ダメでしょ」なんて言われて喜んでるユウくん。

集団生活には、どうしてもストレスが伴うことがあります。でも、子どもたちには、そのストレスを乗り越えてたくましく育っていく力があります。激しいストレスは、心と体をむしろ壊してしまうこともあります。適度



なストレスは、心と体を成長させます。そして子どもたちには、大人たちのようにストレスをためない必殺技があるのです。泣きたいときに泣き、笑いたいときに心から笑う！ そうです。本能の赴くままに生きているのです。この子たちのように生きていけたら、何ですばらしいんだろうって、うらやましく思っています。

中島章裕：愛知県豊橋市の保育園で、毎日、子どもたちと楽しく過ごしている新米園長。なぜか子どもたちに「隊長」と呼ばれ、子どもたちのため、親御さんたちのため、日々走り回っています。3人のお子さんのお父さん。